

ハナモモ新品種‘照手紅’・‘照手桃’・‘照手白’ の育成経過と特性

山崎 和雄・岡部 誠・高橋 栄治*

Kazuo YAMAZAKI, Makoto OKABE and Eiji TAKAHASHI

New broomy flowering peach cultivars ‘Terutebeni’,
‘Terutemomo’ and ‘Teruteshiro’

I 緒 言

ハナモモの利用は、切枝を中心に古い歴史を持つが、庭木や緑化樹としての利用はその花の美しさにもかかわらず、現在のところ多いとは言えない。その一つの理由として、樹型が普通型のハナモモは、若木のうちは樹勢が強すぎ、またやや開張性であることから、限られたスペースへの植栽には適していないことがあげられる。ハナモモの中には狭あい地にも植栽しやすい箒状の樹型を示す系統があり、園芸品種としては、花色が白地にやや不安定な淡桃色絞りの‘箒’が知られている。しかし、この花色は、都市緑化等の新たな利用には適したものとは言えず、広く利用されるには至っていない。筆者らはこのような背景を踏まえて、都市緑化用樹としてより観賞性の高いほうき型品種の育成を目標とし、1973年に育種に着手した。幸い、目標の品種が育成されたので、その概要について報告する。

II 育成経過

1973年に、第1表に示す品種及び交配実生と‘箒’とを交配したF₁実生個体、‘箒’の桃色花のみ咲いた枝の白殖実生個体及び‘箒’の自然実生個体の合計30個体を農林

省果樹試験場より導入した。ほうき性を含め観賞性の高い形質は遺伝的に劣性のものが多いとの想定のもとに、

’76年から’78年まで、開花前に各個体を袋状の白寒紗で覆って自殖採種し、合計513個体のF₂実生を得た。

’79年から’81年にかけて樹型と花の形質調査を行ったところ、ほうき型で花色が紅色で花弁の重なりが重弁のもの5個体、ほうき型で花色が桃色と見られる重弁のもの29個体、ほうき型で花色が白色と見られる重弁のもの40個体が認められた。その後、さらに観察を続け、紅色花個体の中から‘赤枝垂’×‘箒’のF₂実生1個体、桃色花個体の中から‘箒’×‘赤枝垂’のF₂実生1個体、白色花個体の中から‘箒’×‘残雪枝垂’のF₂実生1個体を、花の大きさ、花色の鮮明さ、花着き等、最も観賞性にすぐれた個体としてそれぞれ選抜した。以後、芽接ぎと切り接ぎによって繁殖し、形質の安定性を確認して、’83年に育種を完了した。’84年にそれぞれ‘照手紅’（紅色花）、‘照手桃’（桃色花）、‘照手白’（白色花）と命名し、種苗法による種苗登録を申請、’86年3月3日に登録された。

III 品種特性と利用

3品種とも交配親の‘箒’と同程度のほうき型を示し、樹勢は中庸である。‘照手紅’は在来品種で最も花色の濃い‘寒緋’と同程度の紅色花（明紅色、JHSカラーチャート0106）で、開花期は‘赤芽’と同程度の中生である。‘照手桃’は在来の‘箒’の桃色花（紫ピンク9503）より

* 現フラワーセンター大船植物園

濃い桃色(鮮紫ピンク色, JHS カラーチャート9504)の極大輪で, 開花期は‘籐’と同程度のやや晩生である。‘照手白’は純白に近い白色(黄白色, JHS カラーチャート2501)で, 花弁数が30枚前後と多く, 花着きも極めて良い。開花期は‘籐’と同程度のやや晩生である(第2表, 第1・2・3・4図)。

いずれも, 庭木としてだけでなく, 公園や緑地での列植, 街路樹への利用, あるいは鉢植えにして室内外の装飾に使用するなど, 新たな都市緑化に適合する樹種として様々な利用が期待される。また, 枝物としても, 生産面からは花着きが良く, ほうき性でしおりが容易なこと, 利用面からは枝数の多いことや枝が細く柔かいので生花(せいかに)にも生けやすいことなどすぐれた点が多い。開花期がやや晩いことから, 促成法については今後検討の必要がある。

IV 命名の由来

第2表 育成品種の特性

品 種 名	交配組合せ	花 色	花弁数	花径	開花期	葉色
照 手 紅	赤枝垂×籐	紅色(明紅色0106)	19.7枚	40.2mm	中	緑
照 手 桃	籐×赤枝垂	桃色(鮮紫ピンク9504)	22.1	43.8	やや晩	〃
照 手 白	籐×残雪枝垂	白色(黄白色2501)	30.8	38.8	〃	〃

() : JHS カラーチャートによる表示

開花期: ‘寒緋’; 早, ‘寿星桃(桃一重)’; やや早, ‘赤芽’; 中, ‘籐’; やや晩, ‘菊’; 晩

育成地(神奈川園試相模原分場)相模原市横山にゆかりの深い照手姫伝説の照手とそれぞれの花色をあわせ, 美しいハナモモにふさわしい名として命名した。

V 種苗法による品種登録

出願の年月日	昭和59年3月12日
登録年月日	昭和61年3月3日
登録番号	‘照手紅’ (第970号)
	‘照手桃’ (第971号)
	‘照手白’ (第972号)

第1表 交配親の特性

品種及び交配実生	樹 型	花弁数	花 色
残雪枝垂	しだれ型	重弁	白
赤枝垂	〃	単弁	紅 色
赤芽×寿星桃(桃色)	普通型	単弁	桃 色
籐	ほうき型	重弁	白色地桃色絞り

Summary

New broomy flowering peach cultivars, ‘Terutebeni’, ‘Terutemomo’ and ‘Teruteshiro’ were bred in Kanagawa prefecture Horticultural Experiment Station Sagamihara Branch. They were registered to the seeds and seedlings law as No. 970, 971, 972 in March 3, 1986.

‘Terutebeni’, ‘Terutemomo’ and ‘Teruteshiro’ were selected among the F_2 plants of (Akashidare × Houki), the F_2 plants of (Houki × Akashidare) and the F_2 plants of (Houki × Zansethushidare), respectively. ‘Terutebeni’ is red and double flowered. ‘Terutemomo’ is deep pink and double flowered.

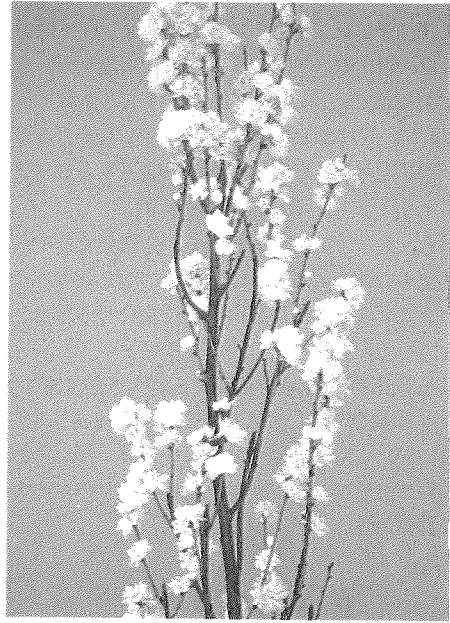
‘Teruteshiro’ is pure white and double flowered. Though many plants of the similar characters were obtained, selected ones were superior to others in flower color, flower size, and flower setting. These varieties are suitable for the garden, roadside planting, potting and cut flowers as well.

* ‘Houki’; broomy type, variegated and double flowered

‘Akashidare’; weeping type, red single flowered
‘Zansethushidare’; weeping type, white and double flowered



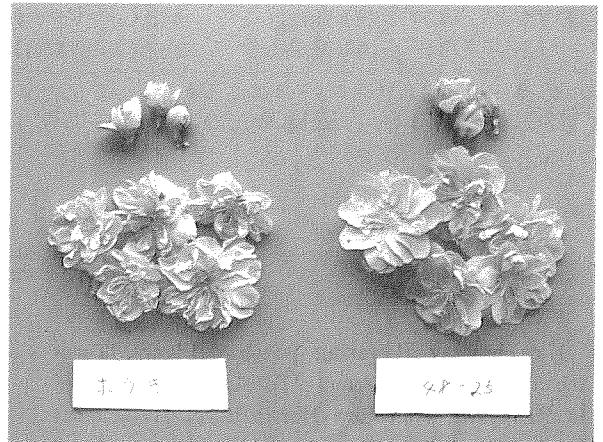
第1図 '照手桃' の開花状況



第2図 '照手白' の開花状況



第3図 '照手紅' と対照品種 '寒緋' の花色



第4図 '霽' の桃色花(左)と '照手桃' の花色